

株主様向け
アンケート

株主の皆様の声をお聞かせください

当社では、株主の皆様のお声を聞かせ頂くため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

下記URLにアクセス頂き、
アクセスコード入力後に表示される
アンケートサイトにてご回答ください。

所要時間は5分程度です。

 <http://www.e-kabunushi.com>
アクセスコード 6770

いいかぶ

検索 

 空メールによりURL自動返信

kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)
アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

 携帯電話からもアクセスできます

QRコード読み取り機能のついた携帯電話をお使い
の方は、右のQRコードからもアクセスできます。



- アンケート実施期間は、7月20日まで
もって、締め切らせて頂きます。

ご回答頂いた方の中から
抽選で薄謝(図書カード500円)
を呈させていただきます



※本アンケートは、株式会社 a2media(イー・ツー・メディア)の提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。(株式会社 a2mediaについての詳細 <http://www.a2media.co.jp>) ※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させて頂き、事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

- アンケートのお問い合わせ TEL:03-5777-3900(平日 10:00~17:30)
「e-株主リサーチ事務局」 MAIL:info@e-kabunushi.com

ALPS REPORT

第82期 報告書

アルプス電気株式会社 2015年5月29日発行

NO.159

証券コード: 6770

Top Message

株主の皆様へ

ごあいさつ

木々の緑が色合いを深め、日差しの中に夏の香りを感じる季節となりました。皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

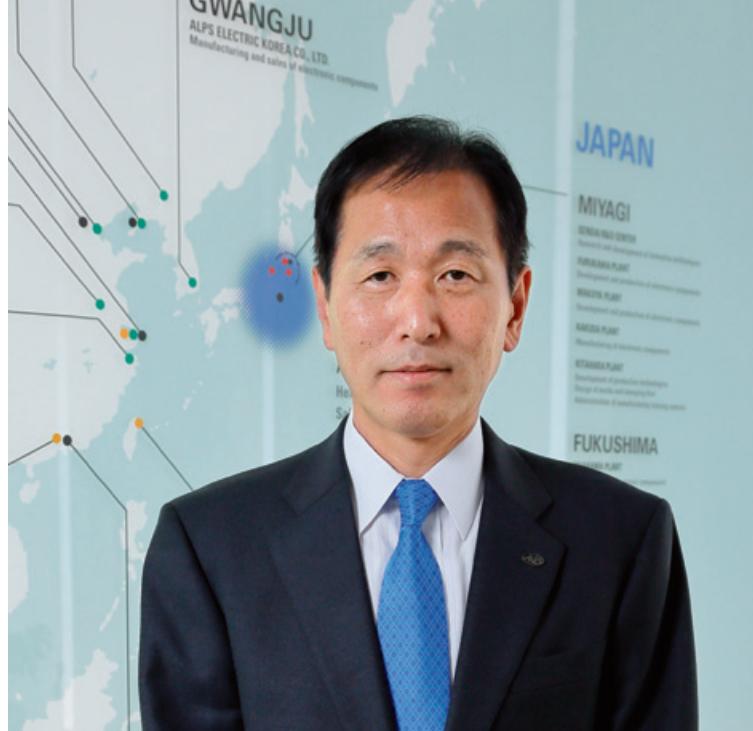
2014年度の世界経済は、雇用環境の改善が進んだ米国で、景気が緩やかに拡大しましたが、欧州では、ロシア経済の悪化がユーロ圏諸国経済に影響を与え、ドイツ、英国を除き景気低迷が長期化しました。また、中国ではさまざまな経済構造の問題に対峙しながら緩やかに減速が続き、新興各国も経済停滞などにより成長が鈍化しました。

日本経済は、円安基調を背景とした輸出企業での収益改善が見られ、消費税増税に伴う駆け込み需要の反動減の影響も昨秋以降からようやく和らぎ、緩やかな回復基調となりました。

この中で、当エレクトロニクス業界は、テレビやデジタルカメラなどの民生機器が厳しく推移したものの、自動車需要は米国を中心に高級車市場が堅調に推移し、スマートフォンは主要メーカーの新製品発売や中国メーカーの躍進など、それぞれ拡大傾向となりました。

これらを背景に、当社の2014年度業績につきましては、車載及びスマートフォンに使用される電子部品が大きな伸びを示し、売上、利益ともに前期実績を上回る結果となりました。また、第7次中期経営計画の目標である、「車載市場売上2,000億円」及び「スマートフォン市場売上1,000億円」につきまして、どちらも1年前倒しで達成することができました。

振り返ってみますと、車載市場では、自動車とさまざまな機器やモノを通信でつなぐV2X (Vehicle to X) などの新しい動きを捉え、先端技術を用いた次世代ヘッドアップディスプレイや固有技術を生かした通信モジュールなどを開発して市場に投入し、また、各自動車メーカーの商品企画や開発の段階から各種提案を行い、共同での取り組みも進展しました。



スマートフォン市場においては、カメラ用アクチュエータの大幅な伸長をはじめ、各種スイッチなども順調な伸びを示しました。また、今後拡大が期待されるウェアラブル機器では、開発企業とのコラボレーション提案を展開しました。

今年度も、既存製品はもとより、新製品の拡販にいち早く取り組むとともに、新しい時代を見据えた製品開発や、グローバル全拠点での生産性向上、新市場への具体的なアプローチなどを通じて、更なる事業の拡大を目指していく所存です。

最後に、当期の期末配当金は10円、2015年度の中間配当金も10円とさせて頂く予定で、今後も株主の皆様のご期待に応えられるよう、一層の努力を重ねていく所存です。皆様には、今後とも変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長

栗山年弘

第7次中期経営計画の進捗状況

(2014年3月期～2016年3月期)

第7次中期経営計画の2年目である2015年3月期は、当初計画を大幅に上回る結果となり、電子部品事業・車載情報機器事業とも、公表値を達成することができました。

電子部品事業では、高収益製品の売上が大幅に増加し、不採算製品も利益改善したことにより、利益面においても計画を達成しました。

今後の成長を支える重点項目

1 車載市場

売上2,000億円の達成

2 スマートフォン向け市場

売上1,000億円の達成

3 新市場向けビジネスの確立

環境・エネルギービジネス、ヘルスケアビジネスなど

第7次中期経営計画 進捗状況 [連結]

2014年度 大幅増益 2015年度も増収増益を目指す



第6次中期経営計画

第7次中期経営計画

1 車載市場

2014年度の車載市場向けの売上は順調に推移し、1年前倒しで売上2,000億円を達成しました。

自動車の電装化が加速しており、当社はモジュール戦略を強化し、先端技術を用いた電子シフター、コマンダー、ヘッドアップディスプレイなどの拡販に注力してまいります。

通信モジュールは現在、車室内用途のBluetooth®モジュールが業界シェアNumber 1を誇っています。ITS(高度道路交通システム)社会の広がりを視野に、車外とのコネクティビティにも注力し、今後の自動運転を支援するADAS(先進運転支援システム)や、事故を未然に防ぐDSSS(交通安全支援システム)に対応すべく、V2X(Vehicle to X)モジュールやGNSSモジュールなど、自動車とさまざまなモノを通信でつなぐ製品においてもNumber 1を目指してまいります。

また、モジュール製品で顧客の戦略パートナーになることを目指し、各自動車メーカーの企画や開発段階から各種提案を行い、共同での取り組みを進めてまいります。

HMI・センシング・コネクティビティを融合した次世代製品の継続した開発と提案



プレミアムコックピット



ヘッドアップディスプレイ (HUD)



電子シフター



コマンダー



タッチパネル



車載用タッチパネルモジュール

電子化・ネットワーク化に向けた製品開発

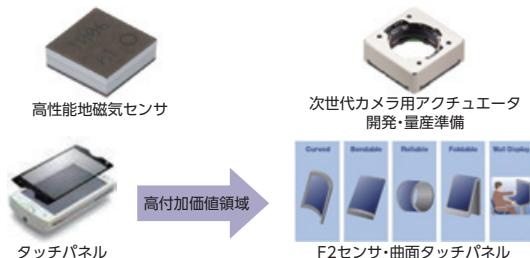


2 スマートフォン向け市場

2014年度は、1年前倒しでスマートフォン向け売上1,000億円を達成しました。

カメラ用アクチュエータについて、主要メーカー向けにOIS(手振れ補正機能付きアクチュエータ)を製品化し、自動機による高品質かつ安定的な供給体制を構築したことにより利益を拡大しました。今年度は、高速オートフォーカスや低消費電力化に対応した製品をバラエティ展開し、中国メーカーなどへも拡販を進め、シェア Number 1を維持してまいります。

小型化・高機能化に対応



増容・増プログラムを目指した次世代製品の開発と提案

スマートフォンのカメラに、さらなる高機能を。



3 新市場向けビジネスの確立

「ALPS SHOW 2014」で出展した新製品の事業化を目指してまいります。

アルプス・グリーンデバイス(株)が開発した、大電流センサ及びトロイダルコイルは電力インフラ市場向けに事業化を目指し、モジュールでは蓄電池システム、デバイスではスマートフォンやPCに使われるパワーインダクタの拡販を目指します。

ヘルスケア市場では、ジーニアルライト社(静岡県浜松市)との業務提携による生体センサモジュールをはじめ、ハートレートセンサ、マルチネットワークモジュール、そしてJINS MEME(ジンズミー)向け製品の拡販を進めてまいります。

当社は、HMI、センサ、そして通信によってさまざまなモノをつなげていくコネクティビティに注力し、環境・エネルギーやヘルスケア市場を次の事業の柱に育ててまいります。

拡販と開発

ALPS SHOW 2014に出展した新製品の事業化

環境・エネルギー

電力インフラ



モジュール

デバイス



ヘルスケア

JINS MEME



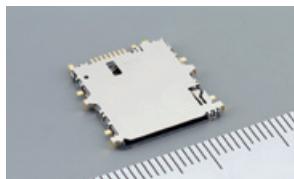
今後も当社は「美しい電子部品」を究め、Number 1・First 1の製品を提供し続けてまいります。

未来の社会を支える注目の新製品

人と地球の明日を豊かにする、暮らしに役立つ新製品を紹介します

業界最薄クラスの実装高さでスマートフォンの薄型化に貢献

microSIMカード用コネクタ 基板落とし込みタイプ



主な用途

スマートフォン、タブレット端末など
microSIMカードを使用する各種機器

スマートフォンやタブレット端末は、ユーザーの情報が保存されたSIMカードを機器に差し込んで使用しますが、これら機器の薄型化に

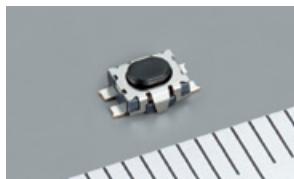
伴って、小型化されたmicroSIMカードが登場しています。

本製品は、モバイル機器等に内蔵され、microSIMカードと機器とをつなぐコネクタの新製品で、薄型化のニーズに応えた「基板落とし込み」タイプとしています。

これは基板を切り欠いて本製品を実装するもので、これによって、基板からの実装高さは、業界最薄クラスとなる0.75mmを実現しました。また、当社独自のシミュレーション技術を駆使し、上下を金属枠で覆う構造とすることにより、高い耐久性も実現しています。また、カードの有無を判別する検出スイッチ部分には、ごみ、ほこりなどの異物の影響を受けにくい、しゅう動接点構造を採用するなど、高品位な製品となっています。

優れた防塵性能と良好なフィーリングで車載機器を快適に操作

車載用タクトスイッチ®



主な用途

キーレスエントリーシステム、カーオーディオ、カーナビゲーションなどの車載機器、家電機器、パソコンなど

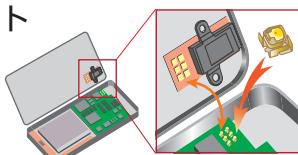
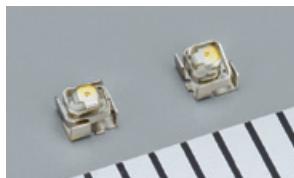
本製品は、キーレスエントリーシステム、カーナビゲーションなど、車載市場に最適なタクトスイッチ®として開発しました。

自動車に搭載される数多くのスイッチには、厳しい使用環境に対応するため、車載機器の組み立て時、ちり、ほこりの混入による初期不良を避けるため、優れた防塵性能が求められます。

今回、新たにラインアップしたタクトスイッチ®は、長年培ってきた機構設計技術、材料技術を生かし、形状や材質を最適化したメタルコンタクトと、独自の接点閉鎖構造を採用することによって、防塵性能の国際規格で最も高い「IP6x」相当を達成。また、同時にメタルコンタクトがもたらす良好なフィーリングも実現しています。更に、部品の材質や内部構造を最適化し、本来とは違う方向から押されてもつづれにくい高い耐久性を確保。従来品比2倍の20万回の長寿命も実現しています。

モバイル機器内部のデバイス同士を接続する業界最小部品

小型低背圧接コンタクト (micro clip)



主な用途

スマートフォンやウェアラブル機器などの小型モバイル機器、デジタルカメラ、各種ゲーム機器、及び検査用装置など産業機器

圧接コンタクトは、電子機器内部の基板と基板を、また基板とデバイスを物理的な圧力によって電気的に接続するための部品です。スマートフォンでは、主にアンテナ、グラウンド、バッテリーの接続などに使われています。

小型モバイル機器の更なる薄型化、及びこれらに搭載されるデバイスの小型化ニーズにより開発したのが、この小型低背圧接コンタクト (micro clip) です。独自の二重螺旋パネ構造と精密加工技術によって、1.4×1.4mmと業界最小サイズを実現。高さは0.7mmと小型モバイル機器に最適です。

業界で初めて、正方形の形状でありながら垂直に可動するパネ構造によって、振動や衝撃に強く、接触ポイントが安定するため、高い信頼性を確保しています。

また正方形の形状は、機器に搭載する際、多数個を整理して効率よく並べることができるなど、自由な配置が可能。更に組み立て作業中に引っ掛かりが生じにくい構造のため、セットメーカーでの組み立て工程の作業効率向上にも貢献します。小型ながら3Aの電流に対応。モバイル機器はもとより、さまざまな機器に搭載が可能な製品です。

2015年2月

- 正方形状と業界最小の面積を実現した「小型低背の圧接コンタクト(micro clip)」を発表
- 新たなビジネスマッチングを促す「組込み技術展」に協賛、古川工場(宮城県大崎市)で開催

2015年3月

- Yahoo! Japanが主催する開発イベントに協賛
- アルプス・グリーンデバイス(株)が、北米最大のパワーエレクトロニクス関連展示会「APEC 2015」(ノースカロライナ開催)に出展
- 東北大学と高性能な軟磁性粉を共同開発
- アルプスグループ3社(アルプス電気、アルパイン、アルプス物流)合同入社式を挙行

2015年4月

- ジーニアルライト株式会社様と生体センサモジュール事業化に向け業務提携を強化
- 「MEDTEC Japan 2015」に出展
- 2014年度通期決算を発表

Yahoo! Japanが主催する開発イベントに協賛

当社はYahoo! Japan(ヤフー株式会社)が主催する「Open Hack Day Japan 3」(3月7~8日開催)に協賛しました。

Open Hack Dayは、世界中のYahoo!社で開催される開発コンテスト「Hack Day」に技術者や学生など、一般参加者を招いて行われるものです。協賛企業が提供するデバイスやデータなどを使い、24時間以内で、自由な発想とアイデアを形にし、その完成度を競うこのイベント



協賛内容:マルチセンサネットワークモジュールの提供

に今回、当社は昨年の「CEATEC JAPAN 2014」で好評を得た「マルチセンサネットワークモジュール」を開発用素材として提供。同時に「アルプス電気賞」として優秀作品に賞品を進呈しました。

当社は、これからもクリエイティブマインド溢れるさまざまな活動を応援していきます。

東北大学と高性能な軟磁性粉を共同開発

当社は東北大学との産学共同研究プロジェクトBIP(ビジネス・インキュベーション・プログラム)で、高飽和磁束密度と低損失を兼ね備えた軟磁性粉(アモルファス粉)の開発に成功しました。

電子部品などの材料となるアモルファス粉は、これまで小型化と低損失の両立が困難でしたが、今回開発の新材料は、小型化に貢献する飽和磁束密度の高さと省電力に貢献するコアロス従来比20~25%向上。これにより車載電装品などのパワーエレクトロニクス領域で、大幅な小型化、高性能化が期待できます。更に製造過程での廃液などがない、ガスアトマイズ法で作製可能なため、環境負荷が低減できることも大きな特徴です。

今後、リアクトルなどの電源モジュール用部品、モーターなど、電気-磁気変換を応用した磁性電子部品用の磁性コアなどの開発を進めていきます。

また、将来ジョイントベンチャーを設立し、事業化を進めることも計画しています。

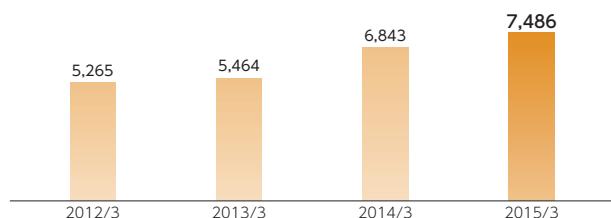


記者会見をする東北大学牧野教授(左)、当社笹尾取締役(中央)

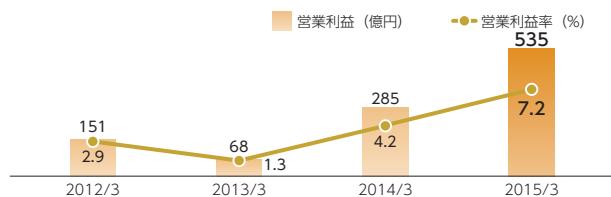
2014年4月1日～2015年3月31日

連結業績の概況

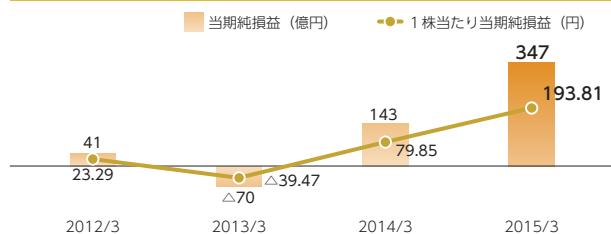
売上高 (単位：億円)



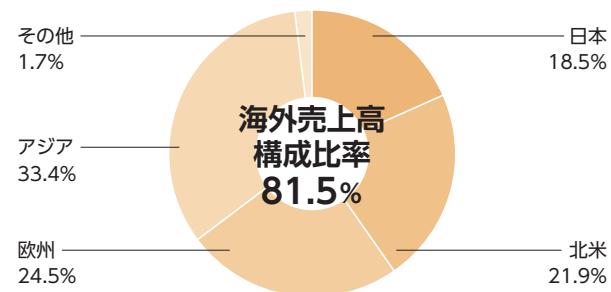
営業利益・営業利益率 (単位：億円、%)



当期純損益・1株当たり当期純損益 (単位：億円、円)



地域別売上構成



設備投資・減価償却費・研究開発費の推移 (単位：億円)

※内訳には連結消去を含んでおりません。

設備投資



減価償却費



研究開発費



次期の見通し

2016年3月期 業績予想

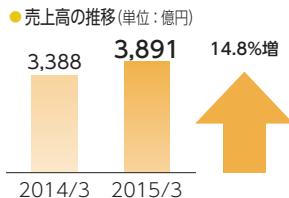
売上高	7,670億円	(前期比 2.5%)
営業利益	545億円	(前期比 1.8%)
経常利益	545億円	(前期比 △5.4%)
当期純利益	365億円	(前期比 5.1%)

※想定為替レート：1ドル = 115円
1ユーロ = 125円

事業別の概況

2014年4月1日～2015年3月31日

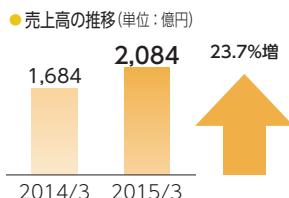
電子部品事業



■第7次中期経営計画を1年前倒しで達成

自動車市場向けに、エレクトロニクス化による新しい動きに対応した各種新製品の提案を行い、電子部品やモジュール製品の搭載が着実に進みました。また、スマートフォン向けの電子部品が引き続き好調に推移するとともに、省エネルギーやヘルスケア等の新市場ビジネスへの拡販活動も積極的に進めました。

●車載市場



■車載モジュール、車載デバイスともに順調

自動車とさまざまな機器やモノを通信でつなぐV2X (Vehicle to X) などの新しい動きを捉え、先端技術を用いた次世代ヘッドアップディスプレイや固有技術を生かした通信モジュールなどを開発して市場に投入するとともに、スイッチやセンサなど各種操作入力用モジュールも積極的に展開し、概ね順調に推移しました。

●民生その他市場



■カメラ用アクチュエータが大幅に伸長

テレビやデジタルカメラなど民生機器向けの電子部品が低調に推移したものの、スマートフォン市場向け製品では、好調な北米メーカーに加え、中国メーカーの台頭など激しい変化が続く中で、当社製品の優位性が結実し、カメラ用アクチュエータの大幅な伸長をはじめ、各種スイッチ等も順調な伸びを示しました。また、今後拡大が期待されるウェアラブル機器では、開発企業とのコラボレーション提案を展開しました。

車載情報機器事業



■大画面ナビゲーションを投入し他社と差別化

アルパイン(株)(東証一部)では、北米市販市場にピックアップトラックやSUV向け、欧州市販市場では高級車向け車種専用大画面ナビゲーションの新製品を投入しました。また、国内市販市場に世界最大サイズ10インチ大画面ナビゲーションを新たに投入し、他社との差別化を図りました。

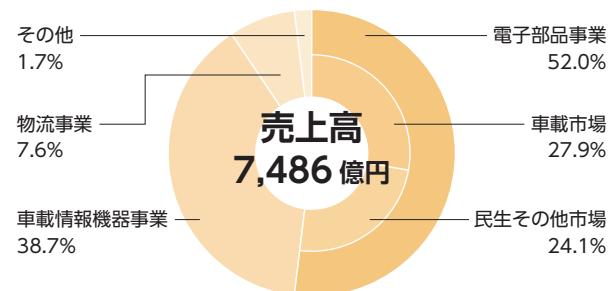
物流事業



■グローバル・ネットワークの拡充

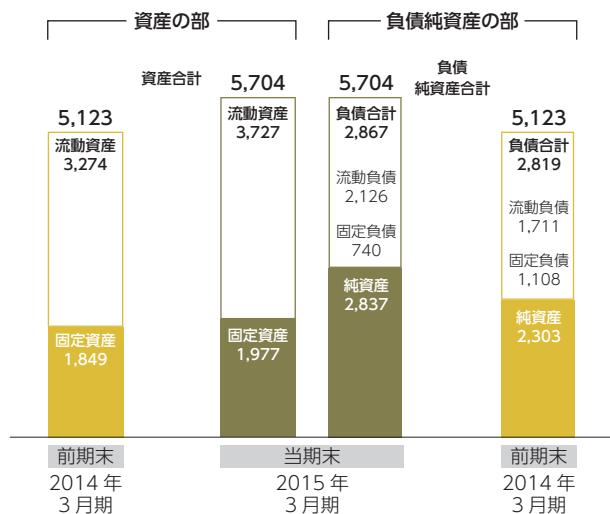
(株)アルプス物流(東証二部)では、グローバル・ネットワークの拡充において、韓国では海上輸送の国際ハブ地域である釜山に事務所を開設した他、IATA(国際航空運送協会)の航空貨物代理店ライセンスを取得して貨物の取扱拡大を推進しました。中国(香港、大連、無錫)、タイ、米国、メキシコでは、海外ビジネスの拡大に伴う取扱貨物量の増加に対応すべく、各拠点で倉庫の拡張を行いました。

事業別売上高構成比



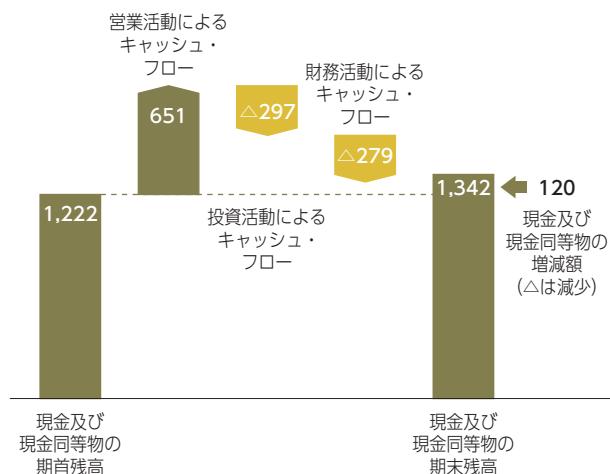
連結貸借対照表の概要

(単位:億円)



連結キャッシュ・フローの概要

(単位:億円)



世の中を支えるアルプスの技術



高周波技術

スマートフォンによるインターネット接続など、無線通信無しの生活は想像できなくなりましたが、自動車に関しても同様です。カーナビゲーションで正確な位置や渋滞情報などを得られるのも、スマートフォンなどと連携してハンズフリーで電話を掛けたり、音楽を聴いたりできるのも、この無線通信技術によるものです。

Bluetooth®、Wi-Fi、LTE、衛星等々、無線通信方式はさまざまで、それぞれ高い技術が求められます。また一番大切なことは、どんな通信方式であっても、どんな環境下でもあっても、確実に「つながる」ことです。

当社では古くからTV用チューナを手掛け、Bluetooth®においては世界初の民生用モジュールを開発。車載用Bluetooth®モジュールでは世界一のシェアを誇っています。高周波設計、高密度実装技術などに加え、古川工場(宮城県大崎市)内にある東北随一の規模を誇る電波暗室を活用した評価・シミュレーション技術と、さまざまな機器が相互に無線通信で接続できることを確認する経験とノウハウを蓄積しており、お客様から高い評価を得ています。

最近、「自動運転」「安全運転支援」という言葉をよく耳にしますが、これらが実用化されるには、さまざまなセンシング技術、インターネット、クラウドサービスなどとともに高度な無線通信技術が不可欠となっています。

当社は昨年、複数の衛星測位システムに対応できる「マルチGNSSモジュール」、高速・大容量通信を可能とする「車載用LTEモジュール」を発表。また、「CEATEC JAPAN 2014」では、道路と車、車と車とが通信し、安全運転を支援する「車載用V2X通信モジュール」を参考出展し、製品化を目指しています。

人・車・道路・設備をつなげることでドライバーの利便性を高め、より安全・安心な車社会の実現に貢献してまいります。

株式情報

■ 株式状況

会社が発行する株式の総数 発行済株式総数
500,000,000 株 **181,559,956 株**

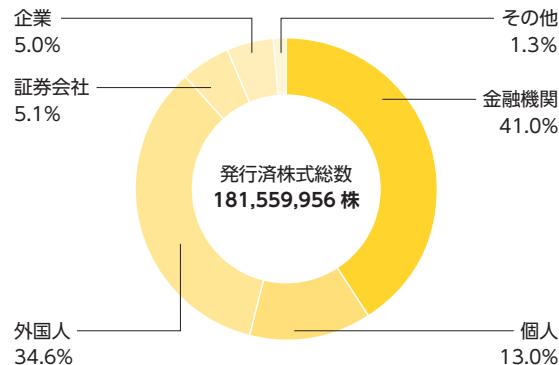
■ 大株主の状況

(2015年3月31日現在)

順位	株主名	株式数	持株比率
1	日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	20,847,600	11.48%
2	日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	20,383,700	11.22%
3	CHASE MANHATTAN BANK GTS CLIENTS ACCOUNT ESCROW	4,356,088	2.39%
4	三井住友海上火災保険株式会社	3,596,400	1.98%
5	三井生命保険株式会社	3,591,000	1.97%

■ 所有者別分布状況

(2015年3月31日現在)



(注) その他は、自己名義株式と保管振替機構名義の失念株式です。

(注) 個人は、個人・持株会名義の株式です。

IR情報Webサイトのご案内

IR情報

直近の財務諸表からよく頂くご質問まで、分かりやすいメニュー構成で必要な情報を入力できます。2015年の主なIR活動のカレンダーも掲載しておりますのでご確認ください。



IRニュース

当社株式に関連する新しいニュースが掲載されているコーナーです。

アルプス電気 IR

検索

■ 会社の概要

(2015年4月30日現在)

社名 アルプス電気株式会社
 英文社名 ALPS ELECTRIC CO., LTD.
 本社 〒145-8501
 東京都大田区雪谷大塚町1番7号
 TEL. (03) 3726-1211 (大代表)
 (03) 5499-8026 (IR部門直通)

設立 1948年11月1日
 資本金 23,623,571,711円
 発行済株式総数 181,559,956株

■ 株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日
 基準日 定時株主総会権利行使確定日 毎年3月31日
 期末配当金支払株主確定日 毎年3月31日
 中間配当金支払株主確定日 毎年9月30日
 その他あらかじめ公告して定めた日

定時株主総会 毎年6月下旬
 公告掲載 電子公告により、当社ホームページ
 (http://www.alps.com/j/ir/index.html)
 に掲載します。なお、やむを得ない事由により、
 電子公告ができない場合は、日本経済新聞に
 掲載します。

上場証券取引所 東京(第一部)証券コード6770
 1単元の株式数 100株
 株主名簿管理人及び
 特別口座の口座管理機関
 同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社
 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
 ホームページ http://www.tr.mufg.jp/daikou/

三菱UFJ信託銀行証券代行部

検索

【ご注意】

- 住所変更、単元未満株式の買取・買増請求その他各種お手続きにつきましては、原則、お取り引きのある証券会社などにお問い合わせください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、三菱UFJ信託銀行証券代行部にお問い合わせください。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

■ 株式事務に関するお問い合わせ

三菱UFJ信託銀行証券代行部 テレホンセンター

お問い合わせ

☎ 0120-232-711

(受付時間: 土・日・祝祭日を除く平日9:00~17:00)

住所変更等諸届用紙ご請求

☎ 0120-244-479 (24時間受付)

